



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2024 **6** 月号
Vol.160
毎月1回発行(通巻160号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号 S-GATE八丁堀9F TEL.03-3553-2906 <http://www.JMMPA.jp/>

第13回「全国医療経営士実践研究大会」演題発表・審査委員長に聞く

自身の仕事を俯瞰できる貴重な機会 今年こそ演題発表に挑戦しよう!

12月1日(日)に開催する第13回「全国医療経営士実践研究大会」福岡大会では、多くの演題発表者の登壇に期待が高まる。審査委員長を務める吉長成恭氏(特定非営利活動法人日本園芸福祉普及協会理事長)から、登壇を検討している医療経営士の皆さまにメッセージをいただいた。

医療者の理念に基づいた 医療経営士の発表に期待

今回の大会テーマは「医療経営士の働き方が病医院を変革する」今、求められるマネジメント能力と具体的実践方法」です。今大会で運営委員長を務める矢野正子先生が登壇される基調講演のタイトル「医療経営士が切り拓く現場感覚・現場主義の道標(みちしるべ)」からも読み取れますが、現場での医療経営士の実践力の重要性を改めて強調する大会になるのではないかと考えています。

院の理念、さらには「人を救う」という大きな理念と密接に結びついたものであることが重要だと考えています。これは医療経営士も同じで、実際に医療経営士に対する他職種・他業種からの信頼度というのは、そういった共通の理念に基づいた行動のうえに成り立っているのではないのでしょうか。今大会の審査については、理念に基づいた切り口という部分を少し気にしたいと考えています。

登壇する本人にとっても 新たな価値の創出になる

毎年の発表を見させていただいて感じるのは、実務をしながらこれだけのことをまとめていただくというのは、医療経営士のなかで

学習する文化、ラーニング・カルチャーが根付いているということの現れではないかということです。自身の取り組みを文章化し、資料としてまとめて、大会という場で発表する。これは単なる仕事という枠を超えたマインドでしょう。そういう意味では、この演題発表は全国の医療経営士にとって貴重な学びの機会となることはもちろんですが、発表される本人にとっても成長の大きな機会になるのではないかと思います。

日常のことを客観的に見て文章化する行為は、日々、目先の業務を処理していかなければならない日常のなかで、一度立ち止まって自分の理念、仕事に対する姿勢を改めて問う機会にもなります。そうすることで「いったい自分とは何か」という哲学的なところまで考える機会ともなる。それは自身にとっても新しい価値の創出につながるはず。



本大会も審査委員長を務める吉長成恭氏

また実際にどのような演題にするかを考える際には、ぜひ事前に医療経営士同士のネットワークの活用も検討してみてください。発表内容について相談や情報交換を行うことで、より発表内容が充実してくるはず。そういった形で医療経営士の横のつながりがさらに発展していくことも望んでいます。

大会運営委員長が矢野先生ということもあり、これから看護師の医療経営士が増えてくるきっかけの大会になるのではないかと考えています。資格の幅もさらに広がり、新しい始まりとなる今大会に、ぜひ登壇者として参加していただくことを期待しています。

第13回 全国医療経営士実践研究大会 福岡大会

開催日
**2024年
12月1日
日**

医療経営士の働き方が病医院を変革する

～今、求められるマネジメント能力と具体的実践方法～

大会運営委員長 | **矢野正子** 日本医療経営実践協会九州支部支部長/ 聖マリア学院大学名誉学長
会場 | **オリエンタルホテル福岡 博多ステーション**

※開催前日の11月30日(土)に懇親会(前夜祭)を行います。詳細はホームページでご確認ください。



第1回日本医療経営実践協会 北海道支部シンポジウム「医療経営士が考える病院経営の今とこれから」

実行委員会発足を記念し 多職種・多業種の医療経営士が集結!

日本医療経営実践協会北海道支部は6月15日(土)、初のシンポジウム「医療経営士が考える病院経営の今とこれから」を開催した。当日は、医療経営士をはじめ、病院経営層、事務職など約70人が参加した。



会場の浜仁会ホールに70人弱の参加者が集結

新たなフレームワークも提案

冒頭、田中繁道北海道支部支部長が開会挨拶に立ち、「現場で実践している医療経営士自らが発案、協議して実践する研究会を運営したいとの意見が会員から寄せられ、この度、実行委員会を発足することになった。本シンポジウムを盛り上げて議論風発の会にしたいと期待したい」と開催の趣旨を述べた。続いて、シンポジウムの前に行われた理事会で承認を受けた実行委員会の実行委員長に就任した上村修二氏（札幌医科大学附属病院病院教授・医療経営士2級）が登場、実行委員会メンバーを紹介した。

基調講演では、田中支部長が「変革期の医療経営を考える」をテーマに壇上から登壇。前半は同グループの経営理念や理念体系などについて解説し、後半では「PDCAサイクルの呪縛」と称し、時間を要するPDCAの運用に問題提起したうえで、代わって迅速な意思決定と行動を重視する「OODAループ」の有用性を強調した。

最後にリーダーのあり方として、これまでの支配型リーダーから支援型あるいは共有型のように権限とは関係ない人材もリーダーシップを発揮すべきと指摘。「若い人材がリーダーシップを発揮できるように育成し、組織を活性化していただきたい」と呼びかけた。

多角的な視点から病院経営を考える

実践報告では、まず上村氏が実行委員準備委員会で北海道の医療経営士会員に聴取したアンケート結果を

報告。資格取得後の変化や実務への影響、資格の認知度を広めるための方策、実行委員会への期待などについて紹介した。続けてセラピスト、企業、事務、医師といった多職種・多業種の立場から6人が発表。その後、副実行委員長の平間康宣氏（医療法人仁友会仁友会本部本部長・医療経営士1級）を座長に迎えた。パネルディスカッションも行われ、会場との質疑応答でも多くの意見が交わされた。

閉会挨拶に立った平間氏は「いろいろな課題を抱えている同じ志を持った仲間同士、モチベーション向上に寄与できるような実行委員会として発展していきたい」と述べ、初開催となったシンポジウムを締めくくった。シンポジウム後には懇親会も開催し、医療経営士同士交流を深めた。

実行委員会実行委員長のメッセージ

このたび、実行委員会の実行委員長に就任いたしました。実践的な研究会の企画・運営を活発に行っていくことで、医療経営士という資格の魅力を高めていきたいと考えています。以前に行った北海道内の会員のアンケートから、おかげさまで実行委員会に期待していただく声も多く寄せられました。情報共有プラットフォームも立ち上げましたので、ぜひ登録して意見を交わし、北海道支部を盛り上げていきましょう！



実行委員長・上村修二氏

参加者の声～会場アンケートから～

【基調講演について】

- 浜仁会グループの医療経営の考え方、経営ポリシーを学ぶことができ、組織を機能させるためのヒントがあった。
- 組織経営を長期的ビジョンで考えておられるところ、バックカasting思考・OODAループという斬新な視点がありながら、それを支える根底が愚直・凡事徹底というところに感銘を受けた。
- 細分化されたCSR経営の導入・推進、施設ごとのあるべき姿の具現化、シェアードリーダーシップ、地域経営の重要性など多方面における経営戦略について拝聴でき、大変参考になった。
- 組織を前に進めていく際の浜仁会病院の行動力と団結力、また、トップが職員一人ひとりを大切にしていることがわかる「人財」という言葉を使って、経営・運営されていることに大変感銘を受けた。

【職種別実践報告について】

- 実際の経営や取り組みの実例がわかりやすく、参考になった。
- 医療経営士といえども職種により、考え方、行動の仕方、ゴールは一緒でもいろんなアプローチがあることを聞くことができ、知識の幅が広がったと感じた。
- 職種ごとに課題は多岐にわたることが理解できた。課題に対して医療経営士としてどのような活動ができるのか、考えるきっかけになった。

【パネルディスカッションについて】

- 現場でのリアルな声に加え、医療経営という視点からのディスカッションになっていたのが勉強になった。
- 司会者も指摘していたが、医療経営のニーズが決って広くはない。キャリアパスがまだ形成さ

れていない点があった。

- 課題に対して1つの側面から考えることが多いが、医療経営士というライセンスにより、整えられた場において多職種で意見交換することに非常に価値があると思う。

【支部活動について】

- 定期的にグループワークの開催をお願いしたい。活発な議論ができればと思う。
- 道北医療経営ネットワークだけでなく、支部の勉強会などにもできる限り顔を出して参加したい。
- 支部に所属する医療機関の情報共有/連携が進むことで、地域全体の質の向上/最適化に繋がると信じている。弊社も企業色を出すことなく、ニュートラルな立場で支部に貢献したいと考えており、ご迷惑でなければ意見交換の機会をいただきたい。

病院で医療DXを推進できる 医療経営士を目指そう！

医療DXへの関心が高まるなか、医療経営士が活躍するた
めにはどうすればよいのか。日本医療経営実践協会関東支
部では7月に神奈川と多摩、2つの自主研究会が医療DX
をテーマに研究会を開催する。

医療DXを進めるために
何から手をつける？

2024年度診療報酬改定は医療DXの推進が大きなテーマの一つ。具体的な改定内容においても、「医療情報取得加算」「医療DX推進体制整備加算」「在宅医療DX情報活用加算」といった項目が新設されている。その算定に向けた要件の確認等に追われている方も多いのではないだろうか。

しかし、これらの加算を算定したからといって、病院のなかでDXが進むというわけではない。厚生労働省に言われたことをやり、システムを入れることが医療DXではなく、これからの人口減少時代に病院としての機能を存続させるために何をしなければならぬのか、というそもそもの目的を十分に理解しておく必要がある。

そのうえで、実際に何をすべきなのかが重要になってくるが、具体的に何から動けばよいのかわからないという声も少なくない。

そこで、関東支部の自主研究会である神奈川研究会と多摩研究会が7月に開催する、医療DXをテーマとした研究会を紹介する。

自主研究会が続々開催
オンラインでも参加可能

7月19日（金）には、神奈川研究会が「病院DXの進め方事例ー重点を置くべきポイントー」をテーマとして研究会を開催する。講師は同研究会の代表世話人も務める、済生会横浜市東部病院DX推進室副室長の金城悠貴氏が登壇する。

医療DXの推進に向け、それぞれの医療機関は厚生労働省が示す方針や課題をクリアしていくことを目的とするのではなく、自院の将来ビジョンを明確に見据えたうえで、その実現に向けた施策を講じていく必要がある。研究会では金城氏が病院のなかでの医療DX推進の具体的な事例を示しながら、計画の立て方や考え方を紹介する。院内での具体的な進め方を学べる貴重な機会となるだろう。

7月26日（金）には多摩

研究会が「医療経営士が知っておきたい医療DXの正しい進め方」と題した研究会を行う。講師は病院の事務部長を経て現在では医療機関を対象にシステムの導入やシステム運用改善支援等を行っている、合同会社メディカルソリューションパートナー代表の兵藤敏美氏が登壇する。

多くの医療機関の現場を知る兵藤氏が、病院で医療DXを推進していくうえで何がボトルネックになるのかを踏まえながら、医療DXの本質、そして実際に進めていくために必要なポイントについて解説する予定だ。

医療機関が好むと好まざ

るとにかかわらず、医療DXは確実に進んでいく。「マインナ保険証への対応」「電子カルテ情報の標準化」といった個々の事象だけにとらわれるのではなく、その本質を理解したうえで、病院として何をすべきかを見据えることが不可欠となる。

その役割を担う存在こそ、医療経営士ではないだろうか。医療経営士の皆さまにはぜひ支部研究会にご参加のうえ、医療DXについてしっかりと学んでいただきたい。医療機関における医療DX推進のキーパーソンとして、多くの医療経営士の活躍が期待される。

第51回神奈川研究会

「病院DXの進め方事例ー重点を置くべきポイントー」

◇日時:2024年7月19日(金)19:00~21:00

◇講師:金城悠貴氏

(済生会横浜市東部病院DX推進室副室長、医療情報技師、医療経営士2級)

第3回多摩研究会

「医療経営士が知っておきたい医療DXの正しい進め方」

◇日時:2024年7月26日(金)19:00~20:30

◇講師:兵藤敏美氏

(合同会社メディカルソリューションパートナー代表)

どちらの研究会もオンラインで全国から参加可能。皆さま奮ってご参加ください

詳細・お申込みは
こちら



受験エントリーまもなく締切! →7月1日(日)から

第12回

医療経営士

1級

資格認定試験

試験日

第一次試験

9月8日[日]

第二次試験

12月8日[日]

受験形式

- 短文記述形式(10題・90分)
- 論文記述形式(2題・90分)

面接試験

- 口頭試問(プレゼンテーション形式)
- 個人面接

試験エントリー期間

7月1日(日)~7月29日(日)

受験料支払締切日

7月30日(火)

受験料

50,000円

※税込、振込手数料別途(受験者負担)

試験会場

東京都(中央区内)

医療経営士の最上級位にチャレンジしよう!

事務局掲示板

会報誌『理論と実践』投稿募集中 自分の声を会員に届けよう

当協会が発行している会報誌『理論と実践』では、会員の皆さまからの投稿を募集しています。日頃の職務における疑問や悩み、業務改善へ向けたアイデア、病院経営や医療政策・制度に関する論文や問題提起等、内容は自由です。採用原稿については薄謝を進呈いたします。お気軽にご投稿ください。

【お申し込み】 E-mail : info@jmmpa.jp

知っておきたい「医学の基礎知識」を DVDとテキストで効果的に習得できる 「医療経営士」基礎力UP講座

当協会では医療経営士として知っておきたい医学の基礎知識を効果的に学べる「基礎力UP講座」を開講しています。テキストとDVDを通して事務職や他業種の方が、医療専門職との連携やコミュニケーションにおいて必要不可欠な医学知識や医療用語を平易かつ効果的に学習できる仕組みになっています。詳細はホームページにてご確認ください。

【医療経営士「基礎力UP講座」】

http://www.jmmpa.jp/support/tsushin/up/
TEL : 03-3553-2906

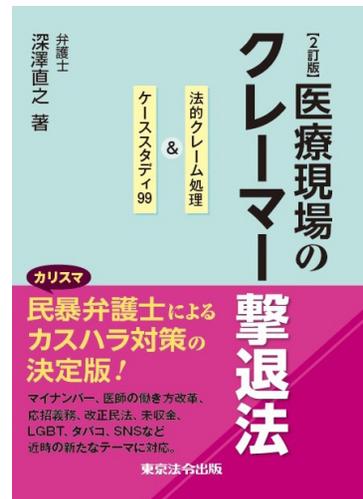


BOOKS

毅然としたクレーム対策で病院職員を守る！ 病院が打つべき一手を弁護士が徹底解説

近年、病院・クリニックにおいて迷惑患者、いわゆる「モンスターペイシェント」に関するトラブルが少なくない。医療機関側としてどこまで許容しなければならないのか。対応によってはSNSで炎上するようなケースもあり、頭を抱えている関係者の方もいるだろう。

本書は2部構成となっており、第1部では「クレームの概念とクレーム処理の基本」として、クレームの概念や患者とクレームの境界線、弁護士や警察等外部機関との連携について解説。第2部は「医療現場でのクレーム事例」として、「受付・会計」「診療時」「入院中」などの場面ごとに設定された事例について回答と解説を掲載している。職員を守るためのクレーム対策の一助として、手元に置いておきたい。



- 著者：深澤直之(弁護士)
- 定価：5,500円(本体5,000円+税)
- 体裁：A5判/528ページ
- 発行：東京法令出版

日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
7月10日(水)	関西	“イチ”からわかる 介護経営オンライン塾 第1回「介護経営を取り巻く環境を学ぶ」	古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ) 熊田圭佑氏(Meister株式会社代表取締役)
7月17日(水)	中国・九州	地域医療連携室の活用で効率的な経営を目指す(2) 「収益アップのための『ベッドコントロール会議設計』」	自覚拓道氏(株式会社プレアデスセブンマーケティング担当)
7月17日(水)	関西	“イチ”からわかる 介護経営オンライン塾 第2回「介護事業の経営分析手法を学ぶ」	古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ) 熊田圭佑氏(Meister株式会社代表取締役)
7月19日(金)	関東	第51回神奈川研究会 「病院DXの進め方事例～重点を置くべきポイント～」	金城悠貴氏(済生会横浜市東部病院DX推進室副室長)
7月24日(水)	関西	“イチ”からわかる 介護経営オンライン塾 第3回「介護事業の経営戦略策定を学ぶ」	古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ) 熊田圭佑氏(Meister株式会社代表取締役)
7月26日(金)	関東	第3回 多摩研究会 「医療経営士が知っておきたい 医療DXの正しい進め方」	兵藤敏美氏(合同会社メディカル ソリューション パートナー代表)
8月7日(水)	関西	“イチ”からわかる 介護経営オンライン塾 第4回「介護事業の収益増加・費用削減と実行手法を学ぶ」	古株靖久氏(有限責任監査法人トーマツ) 熊田圭佑氏(Meister株式会社代表取締役)
8月9日(金)	東北	第23回みやぎ仙台ネットワーク 「生成AIが医療・介護に与える影響」	長英一郎氏(東日本税理士法人代表社員・医療経営指導士)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。



最新医療経営

最新情報を踏まえ新たな病院像を描く
「経営の時代」の羅針盤
PHASE3
フェイス・スリー

7月号
好評発売中!!

巻頭
特集

適正な患者受け入れも円滑な在宅復帰もコレ次第

医療・介護連携の今

2024年度診療報酬改定でも入退院支援はさまざまな切り口で見直されている。病棟運営にも大きな影響を及ぼすだけに、病院全体の経営課題として位置づける必要がある。一方で紹介元医療機関や介護施設との連携、退院時の環境整備など課題も多い。本特集では、経営層、病棟、地域連携室にとどまらず、連携相手となる介護施設などにも話を聞き、入退院支援、そこで不可欠となる医療・介護連携のあり方を多角的に考察する。

詳細・ご購入は
コチラ

